

これは事務員の平均よりは少い。また電話交換手やタイピストよりは遙かに少いが、店員よりはやゝ多いといふ位である。

次に手當については「無し」といふものが十人、有るといふもの十七人。その中で一番多いのは三圓から五圓といふところで、最高と雖も十圓を超えるものはない。

更に賞與についてみるに「有る」といふものが大多数で三十八人である。このうち、三圓以下が一番多くて十五人からある。最高と雖も十五圓を超えるものは無い。

収入とはいへないかも知れないが、この外にも、家庭からの扶助や仕送りを受ける額を記入したものが六人ある。少額ではあるが、しかし最高は十五圓から二十圓までのものである。

これらを加算したる製圖手の収入總額をみると、次の如くなる。

製圖手の収入總額

總數	四二	六〇圓以下	八
三〇圓以下	二二	七〇	二
四〇	一三	八〇	三
五〇	四		

これによつて見ても判る通り、大體に於いて三十圓から四十圓位までである。

一般事務員に比較してみるに、それは三十五圓位から五十圓位までが多いところであるからして、製圖手はやゝ劣る様である。またタイピストは四十圓から五十圓位であるから、これにも劣るやうである。更に電話交換手に於いては、三十圓から四十五圓位までであるからして、これにもやゝ劣る様に思はれる。尤も店員に比較するときにはやゝ良い。

店員では三十圓から三十五圓までが多い。

(二) 支出——次に製圖手の支出方面を調べてみよう。

まづ被服費を觀るに、一箇月に三圓から五圓といふところが大體に多いのである。最低は三圓にも充たないが、最高は十五圓位である。

次に食費及び住居費を見よう。多くは自宅又は親戚知人のところから通つてゐるのであるからして、食費又は住居費としては不明なものが多い。回答をしたもの十二人のうちでは十圓から十五圓までが一番多い。

次に、家計への補助額を見よう。

製圖手の家計補助

總數	二五	二五圓以下	五
五圓以下	一	三〇	二
一〇	三	三五	一
一五	四	四〇	一
二〇	八		

この外に「無し」といふもの十六人からある。

更に交通費は、總數三十四人のうち、最も多いのは三圓から五圓までの十四人である。その次が三圓以下一圓までである。而もなほ十圓から十五圓の多額を一箇月づつ支拂ふものが二人からある。

次に修養費として掲げられたものをみよう。總數三十五人のうち三圓以下、五圓以下といふのが一番多いところである。

る。一人平均では三圓八十錢となる。給料平均三十四圓二錢に對しては、一割ちよつとに上る。次に娛樂費を見よう。總數二十八人のうち、大體五圓以下であるが、三圓以下一圓までといふところが一番に多い。最も多いところでも七圓を超すものはない。娛樂費の「無し」といふものは十四人である。これを一人平均にすると二圓五十二錢であり、給料に對しては七分四厘に餘る。

次に貯蓄額を見よう。總數三十二人のうち、多いところは一圓以上五圓以下で、十七人を占め、十圓以上は五人、十五圓以上二十圓以下が四人である。貯蓄額の「無し」といふもの九人に上る。これを一人平均で觀ると、七圓八十七錢となつて、給料に對して二割三分に餘る。

この外の諸雜費を見るに、大體に於いて七圓以下である。最も多いものといへども二十五圓を超えるものはない。右に述べたる収入、支出について、一番多いところをとつて見ると、大體次の如くなる。

収入		支出	
収入總額	二五〇—三五〇	被服費	三〇—五〇
給料	三〇〇—三五〇	食費及住居費	一〇〇—一五〇
手当	三—五	家計補助	一五—二〇
賞與	一—三	交通費	三—五
扶助	三—五	修養費	一—五
		娛樂費	一—二
		貯蓄額	一—三
		雜費	一—三

第三章 肉體的勞働業務

第一節 女工

前に述べた智能的又は技術的勞務に對して筋勞的業務に従事するものうち代表的なものは女工である。産業革命以來勃興せる近代工業はその機械文明の下に於いて婦人の織細にして緻密なる技巧を要求し、かへて加へて低廉なる勞銀は彼女等の進出を容易にし、紡績業、化學工業等に於いては殊にその傾向目覺しく、或る程度まで男性の立ち入ることを得ない牙城を形成した。

しかも現今では、女工は勞働問題に關して重要な役割を演じてゐるからして、その方面からみても此處に特記する必要があるであらう。

女工の數は非常に多く、今回の調査に於いても一萬六千二百二十六人中五千三百六十人もあり、その種類は又非常に多い。しかしそれと共に最も収入の少い、レベルの低い階級に見られ勝ちであつて、こゝにその詳細を記述することは最も意義あることと思はれる。



第三章 肉體的勞働業務

一身 上

(一) 戸主又は夫の職業——女工の身の上！それは多くの人の關心を持つところである。しかし本調査の場合でも家庭の詳細についてはしかとはわからない。しかし、何ういふ職業の家庭から出て来るのだらうか、といふ質問には答へることが出来る。左に、大分類ではあるが、産業別に観たる女工の家庭の職業を掲げてみようと思ふ。これによつて、その大體を知ることが出来る。

女工の戸主又は夫の職業	
總數	四、八九〇
原始生産業	三三二
工業	一、九一一
商業	七八〇
交通業	一八八
公務、自由業	四二二
家事使用人	四
その他の有業者	一九九
無業	一、〇五四

これによつて観ると、女工の家庭の職業で一番多いのは、無業を除いてはやはり工業の一千九百十一人である。その次が商業の七百八十人と公務、自由業の四百二十二人とである。即ち女工はやはり工業に従事する家庭から出て来るものが多い。丁度それは事務員やタイピストが、勤め人の家庭から出て来るものが多いといふのと同じである。

また、も一つ面白く感ぜられることは、農家の子女が少くて僅かに三百二十四人に過ぎないといふことである。これは調査した工場の範圍が比較的大工場に限られたといふことからして自らこういふ結果が示されたのと、市内の工場は大體に於いて通勤女工であるといふことなども考へ合せられると思ふ。

兎に角、こゝでは一般の豫想に反して、農家や水産業者の子女が少いのである。

更に工業の中を細かく別けて見ると、土木建築業の三百九十六人、紙工業印刷業の三百七十四人、及び金屬、機械器具製造業の三百五十六人等が群を抜いてゐる。

また細分類を通覧してみると、最も多いのは工業の中ではなくして、商業の中の商業的職業である。これは物品販賣店や外交員、露店などを含みその數は七百三十五人である。

これ以外に、失業者の戸主又は夫を家に置いてゐるものは何人位あるだらうかを見るに、その數は全部で百六人で、女工總數五千三百六十人のうちであるからして、百人に對する二人の割合となる。

(二) 年齢及び配偶關係——女工の就職年齢については、十四歳から十六歳までの者が一番多いといふことであるが、現在年齢では十六歳から二十歳までのものが二千二百六十二人であつて一番多い。これを以て見ても明らかに、女工の年齢は職業婦人としては最も若いところに屬してゐるものが多いことがわかる。その次が二十一歳から二十五歳までの一千三百九十八人である。

それから年齢が昇るに従つて、その數を減少する。すなはち二十六歳から三十歳までは四百五十人であるが、それから三十五歳までは二百九十八人に減つてゐる。

十三歳以下で就職したものに就いては、他の職業に比較して女工が最も多く、その數三百四十六人に上る。現在年齢十五歳以下の者が二百二十一人もあるといふことは一寸意外に思はれる。(註参照)

(註) 工業労働者最低年齢法

第三編 業務別に観たる職業婦人

第二條 十四歳未満ノ者ハ工業ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ十二歳以上ノ者ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル事業又ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ工業ニ關スル學校ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス

尙又女の身空で五十路を超えて工場に働く人々は、その老後を養つて貰ふものがないのか、又は在つてもその日の糧に追はれて餘裕がないのであらうか。

就職年齢	女工の年齢	現在年齢
總數	五、二四一	總數
一三歳以下	三四六	一五歳以下
一四—一六	二、四二八	一六—二〇
一七—一九	九〇六	二一—二五
二〇—二二	四四一	二六—三〇
二三—二五	二八六	三一—三五
二六—三〇	二八八	三六—四〇
三一—三五	二二五	四一—四五
		總數
		五、三五八
		一五歳以下
		一六—二〇
		二一—二五
		二六—三〇
		三一—三五
		三六—四〇
		四一—四五
		一九三

三六—四〇	一五七	四六—五〇	一六五
四一—五〇	一四九	五〇超過	一四九
五〇超過	一五		

次に配偶關係をみるに、總數五千二百六十三人中既婚者は一千六百人の多きに達してゐる。この中現在配偶者を有するものが一千二百三十三人、生別者が九十人、死別者が二百七十七人である。

次に子供數から觀るに、子供一人といふものが一番多くして四百三十七人で、有子者數の半分以上を占め、また女工總數の約八分を占めてゐる。しかも子供數の最も多いものでは七人といふのが一名ある。子供七人を抱えてゐるものは、他の職業四十二種の中で僅かに一名の雜役婦あるのみである。

また夫と死別したる、いはゆる寡婦の子供數について見るに、子供有る者は子無き者の約二倍に當る。また夫と生別したる者に於いても子供の有る方が多い。前者が四十二人、後者が四十八人となつてゐる。これに反して有夫者の場合には却つて子供の無い者の方が多い。有子者五百五十八人に對して無子者六百七十五人である。その詳細については左表によることゝしよう。

女工の配偶關係と子供數

總數	無子者	有子者總數	一人	二人	三人	四人	五人	六人	七人
總數	五、二六三	四、四七〇	七九三	四三七	一七七	九六	五二	二三	七
							二二五		

未婚者	三、六六三	三、六六三	—	—	—	—	—			
有夫者	一、二三三	六七五	五五八	三二二	一一九	六五	三九	一八	四	—
生別者	九〇	四二	四八	三六	九	二	—	—	—	—
死別者	二七七	九〇	一八七	八九	四九	二九	一二	五	三	—

(三) 教育程度及び趣味——女工の學歷を見ると、やはり他の職業のものと同様、小學校程度のものが一番多いのであるが、この中でも尋常小學校が多く四千五十六人となり、總數の七割六分に當る。なほ高等小學校程度の九百五十八人及び全然學歷なきもの百人を加へると五千百六人となる。

中等學校程度の者は、實業補習學校、夜間女學校、實科女學校或ひは高等女學校等を加へても僅かに百四十二人に過ぎない。この外に大學専門程度といふのが二人あるが何れも夜學に通學中の人々である。

女工の教育程度

種別	實數	種別	實數
總數	五、二九二	女子商業夜間女學校程度	二八
全然學歷なきもの	一〇〇	高等女學校程度	六七
尋常小學校程度	四、〇五六	專檢合格者	—
高等小學校程度	九五〇	特殊技藝女學校程度	四二
實業補習學校	—	大學専門學校程度	—
實科女學校程度	四六		

次いで彼女等の趣味を調べてみよう。讀書と映畫とは、他の職業婦人と同じく彼女等にもまた多い趣味である。特に女工ではこの兩者が殆んど同數であるといふことに特異點を見出すのである。旅行の九百人と郊外散歩の三十二人とはこれを同視して差支へあるまい。彼女等が工場の中にあつて機械を相手に致々として働き、偶の休日に晴れやかな郊外の空氣に親しむことは趣味としてこの上もないものであらう。次に觀劇が五百五十六人、音樂が五百四十一人で以下ずつと減つて裁縫が二百四人の外は數量的に取りたてゝいふほどのものはない。

女工の趣味(延數)

總數	延數	種別	實數
總數	七、〇八六	子供ト遊ブ	六
讀書	一、八二八	浪花節	六
映畫	一、八一六	ピンポン	五
旅行	九〇〇	舞踊	五
觀劇	五五六	聲樂	五
音樂	五四一	茶ノ湯	四
裁縫	二〇四	書道	四
生花	五三	著作	四
手藝	三八	清元	四
散歩	三八	洗濯	三
郊外散歩	三二	麻雀	三
		朝寢	—
		飲酒	—
		庭球	—
		入浴	—
		落語	—
		俚諺	—
		ラヂオ	—
		訪問	—
		餘裕ナシ	—
		無趣味	二五七
		不詳其他	六一四

二 勤務・生計

(一) 勤務先——勤務先について、先づ産業別に分けてみるに、工業五千三十二人、商業三百十六人及び交通業、公務自由業の各四人とに分つことが出来る。工業で最多数を占むるものは紙工業印刷業であつて、一千五百二十一人を數へ、化學工業(八百八十二人)及び紡織工業(八百八人)之に次ぎ精巧工業(四百四十二人)、機械器具製造装置業(二百八十八人)、金屬工業(二百六十四人)及び飲食品製造業(二百五十一人)等が主たるものである。商業では物品販賣業の三百四人が殆んど全部を占めてゐる。

左に、これを細分類に亘つて観てみようと思ふ。

女工の勤務先産業別	
總數	五、三六〇
工業	五、〇三二
窯業土石加工業	一六三
硝子硝子品製造	一四二
セメント石炭石膏製造	二〇
其ノ他の土石類加工	一
金屬工業	二六四
造船業	一
鐵道軌道車輛製造	七
自動車自動自轉車製造	三一
精巧工業	四四二
度量衡器計測器科學機械器具製造	一
光學機械器具製造	三四
醫療機械器具製造	一四

金屬壓延	二二	時計製造	三九三
電線電纜製造	一一九	化學工業	八八二
鑄造	四三	藥品賣藥賣藥類似品製造	三六〇
釘鉸針類製造	三六	染料顔料塗料製造	二四
金屬薄板品製造	一一二	護謨護謨品製造(ゴム靴ヲ含ム)	二六
網索製造針金細工	一八	セルロイドセルロイド品製造	一
建築用家具用金物製造	一	動植物油脂製造	二八
鍍金業	九	石鹼化粧品製造	四四三
其ノ他ノ金屬工業	五	紡織工業	八〇八
機械器具製造装置業	二八〇	撚糸業	四三
採鑛選鑛精練用機械器具製造	五	麻糸維糸返業	二二
原動機製造(電動機を除ク)	二	絹織物製造	六六
電動機電氣機械器具製造	一六九	毛織物製造	三二五
電信通信機械器具製造	七	莫大小莫大小品製造	二二七
電球製造	六四	編物組物類製造	四七
其ノ他ノ機械器具製造	二六	漂白精染色捺染絲布加工	二九
電氣機械器具裝置	七	湯熨斗浸拔洗濯業	三八
造船業運搬用具製造業	三九	被服身裝品製造業	一七三
第三章 肉體的勞働業務			二二九

衣服裁縫業	二二	瓦斯發生供給業	一一
帽子製造	一三八	電力發生供給業	三
靴製造	一三	其ノ他ノ工業	一六二
紙工業印刷業	一、五二一	文房具製造	一三四
紙料紙製造	二五	運動用具遊戯品玩具製造	一二
紙製品製造	一一五	印刷業	一六
製版印刷業	一、二二七	商 業	三三六
製本業	一五四	物品販賣業	三〇四
木竹草蓆類ニ關スル製造業	二九	木材竹材販賣	一
刳物木地曲物製造	二二	織物被服類販賣	二
其ノ他ノ木竹草蓆品製造	七	小間物洋品類販賣	一三
飲食料品製造業	二五一	藥品染料顔料化粧品販賣	四
菓子麵粉水飴製造	一六六	度量衡科學的機械樂器時計貴金屬販賣	七
砂糖類製造	二三	新聞圖書雜誌其ノ他ノ出版物發行販賣	二七七
味噌醬油酢製造	八	物品貸貸業預り業	三
和酒醸造	六	娛樂興業ニ關スル業	二
麥酒醸造	二七	接客業 (旅館下宿業)	七
其ノ他ノ酒類醸造	七		

清涼飲料製造	八
罐詰罐詰製造	六
土木建築ニ關スル業	四
瓦斯電氣水道業	一四

交通業 (船舶運輸業)	四
公務自由業	四
其ノ他ノ産業	四

(二) 就職方法——女工の就職戦線は如何といふに、何といつても親戚知人の紹介が最も多く四千六百六十六人あり、之に次いで募集廣告の三百九十五人及び直接面談の二百七十四人で殆んど全部が盡されてゐる。尤もこの募集廣告と直接面談とはその境界がかなり不明瞭ではある。

(三) 勤続年限及び轉職度數——女工の勤続年限についても、最も多いのが三年から五年までで、總數五千三百人の中一千八十九人である。これは他の業務、例へば事務員、タイピスト、電話交換手とも同じ位である。その次が、一年以上二年以下の九百二十一人である。これはタイピスト、給仕及び掃除婦と同順位である。次に勤続年限の長い方を見るに、總數の多いことにもよるが、一年以上の勤続者が三百四十六人、二十年を超えるものが二十六人もある。いまそれを年限順に見るならば、一年以下が七百八十四人、二年以下が九百二十一人、三年以下が八百二十人、五年以下が一千八十九人、七年以下が八百四十三人、十年以下が四百九十七人、更に十五年以下が二百五十二人、二十年以下が六八人にして而も二十年を超過するものが二十六人からある。

次に轉職度數を見るに、轉勤者も可成多く一回のものが九百四十人、二回のもの四百八十九人、三回のもの二百二十五

人、以下はずつと減じて最高は十五回に及んでゐる。轉勤八回以上のものが十一人もある。

(四) 就業時間及び公休日数——女工は智能的又は技術的勞務に従事するものよりも就業時間が比較的長いといふことは普通である。最も多いのは九時間以上十時間以下の四千九百八十九人であつて、その總数の殆んど全部である。短いものでは四時間(一人)、五時間(二人)、六時間(二人)及び七時間(二十九人)等であるが、これ等は相當の技術を要する高級の勞働に携はつてゐるものと見ることが出来る。これと反對に、長い時間を勤務するものでは十一時間(二百八十九人)、十二時間(九人)、十二時間以上(六人)といふ長時間勞働に服するものもある。

公休日数は幾日あるか。工場といへば休日の少ないものである。この調査の結果によつて見ても、二日の二千三百八十八人を最多とする。併し大體毎日曜とみられる四日といふのが二千六百六十五人もある。

これ以外は大したことはないが、總數五千二百二十二人中、公休一日が十三人、三日が七十四人、五日が五百七十四人、六日が六人及び七日が二人といふ工合になつてゐる。

(五) 健康状態——健康状態の思はしからぬものも女工には多からうと思はれたが、回答總數四千五百九十五人中「影響なし」又は「大した事なし」と記せるものが四千二百四十四人に及んで居る。残りの三百五十一人について見るに、身體の疲勞といふものが百四十八人あつて最多數である。之に對する精神の疲勞は僅かに十人しかない。次いで眼の疲勞で四十六人、「冷える」のが三十五人あつて、他の職業に比しても最多數を占めてゐる。之は女性特有の不健康状態であつて、特に女工の如く工場内で立ち働くといふ勞務態様には得て起り易いものであらう。脚氣十九人、呼吸器を害するもの十七人、頭痛及び單に健康を害すと記せるもの各十二人を數へる。

(六) 初任級及び給料——女工の初任給では最も多いのが二十圓以下といふので、總數五千六百六十一人中二千七百二十七人を數へ五割七分を占めてゐる。その次に多いのが、二十一圓以上二十五圓以下といふので、一千五百三十一人である。他の業務と比較してみると、初任給が二十圓以下といふのは女工を除いては、まづ給仕位のものである。その次の二十五圓以下といふのでは最も多いのが店員、食堂給仕、案内係及び雜役婦などである。事務員やタイピスト、交換手では初任給で最も多いのは、二十六圓以上三十圓以下である。これらと比較してもわかる様に、まづ女工の初任給は比較的少ないものである。

次に現在の給料を見るに、總數五千百十六人中、最も多いのが二十一圓以上二十五圓以下の一千三百十五人である。その次が十六圓以上二十圓以下といふので一千六十九人である。その他の業務に就いても、給仕、車掌、食堂給仕等は二十五圓以下が最も多い。次に二十五圓以上三十圓以下といふのが女工の場合では八百八十六人で第三位を占めてゐるのに反して、他の業務では第一位にあるものが大半を占め、その代表的なるものに事務員、店員、交換手、エレベーターガール、雜役婦等々がある。

次に高給者を探つてみるならば、八十圓以上といふもの八名、最高は九十五圓に近い。しかし女工の一人當り平均給料は二十七圓九十錢となつてゐる。

女工の給料

總數	五、一一六	(一人平均二十七圓九十錢)
一〇圓以下	三三三	一、〇六九
一五	二九六	一、三二五
		二三三

三〇四以下	八八六	六五圓以下	三五
三五	四九九	七〇	一三
四〇	三六二	七五	六
四五	二二三	八〇	五
五〇	一八〇	八五	一
五五	一一三	九〇	一
六〇	八八	九五	一

(七) 支出——収入に對して支出の方面を見るに、一家支持或ひは補助の必要ある女工にあつては、支出額では家計補助に支出する外はあまり多額に上つてゐない。尙又、支出項目を記入せる人員は三千五百五十四人であつて、調査票を提出せる女工總數五千三百六十人の六割六分にしか達してゐない。次に女工の支出中最も多きものを各項目に亘つて選んでみると次の如くなる。

女工の支出項目中、最も多きもの	
被服費	一圓—三圓
食費住居費	一〇以下
家計補助	一〇—一五
交通費	一—三
修養費	一圓以下
娯樂費	一
貯蓄額	三
其他の雜費	三

イ 被服費、食費及び住居費——先づ女の生命といはれる被服費に對して幾何の支出をなしてゐるかといふに、月平均三圓以下といふものが最も多く、千六百三十一人に上り、五圓以下の千百十三人と合計は二千七百四十四人の多數となり、三千五百五十四人中七割七分以上に當る。一圓以下といふものが三百四十六人あるがいかにか女工といへど、うら若き身にとつて一圓以下の被服費ではあまりにも慘めであらう。一人平均は三圓六十一錢となつてゐて、エスカレーターガールの二圓五十錢と家政婦の三圓を除いては最もレベルが低い。尙又給料に對して、被服費の割合は一割三分であつて、これ又エスカレーターガール及び家政婦を除いては最下位にある。

食費及び住居費では記入者僅かに一千八百二人に過ぎないが、之は自宅又は親戚より通勤する者が多く従つて食費及び住居費を目に見えて支出してゐるものゝ少いためであらう。しかし三十圓以上八十圓超過までの支出者が百七十一人あるのは女の細腕で一家の生計を背負つてゐる者であつて、如何に彼女等が浮世の荒波と闘つてゐるか自ら目に浮ぶものがある。

ロ 修養費、娯樂費——次に、いはゆる修養費と娯樂費とを見よう。この修養費といふものゝ内容ははつきりとわかない。彼女等の重い生活負擔の中から求める婦人雑誌や新聞程度が主たるものである。修養費として「無い」ものが一千四百六十五人であり、「有る」ものが二千二百五十五人である。この中で最も多いのは一圓以下であるが、中には十圓近くのもの、十二人もあり、十五圓未満が四人、十五圓以上のものが二人からある。この女工の修養費の一人平均額は一圓四十九錢であり、給料平均二十七圓九十錢に對しては五分三厘に當る。

次に娯樂費を見よう。娯樂費の「無い」のが一千三十六人で「有る」のが三千六十人である。この中最も多いのがやはり一圓以下の一千五百四人である。その次は三圓以下である。その一人平均は一圓六十五錢であつて、給料に對する割合は五分九厘に當る。

他の業務に比較して見るに、一人當りは決して多くはない。事務員（七分六厘）、（店員九分二厘）、タイピスト（七分二厘）、交換手（六分一厘）、掃除婦（六分五厘）、給仕（六分八厘）、エレベーターガール（六分四厘）、車掌（八分六厘）等々と較べても少い方である。

ハ 貯蓄——最後に貯蓄を見よう。全體に亘つて婦人は貯蓄心に富んでゐるといふことであるが、女工に於いてはどうであらうか。

記入なきもの又は不明のもの等を除いて、三千八百三十六人の中二千五百五十九人は貯蓄してゐる。千二百七十七人はその餘地なきか又は家計補助に全部を提供する氣の毒な人達であつて、この數字は職業別の「貯蓄なし」の全數に比して大略半數に當つてゐる。

三圓以下の貯蓄が最も多く一千六十九人に上り、次は一圓以下で五百九十六人、五圓以下で四百六十四人あり、この合計は二千二百二十九人で總數の八割三分に當り、七圓以下が百十一人、十圓以下が百六十四人でこれからは急減してゐる。しかしながら三十圓超過の九人、二十五圓超過三十圓以下の十一人、二十圓超過二十五圓以下の十五人もあるのは、彼女等の爲めに萬丈の氣を吐いたものである。

三 仕事に對する希望感想

(一) 仕事に對する希望——彼女等とても個性を備へた婦人である以上、自己の仕事に對しては相當の希望を持つてゐる筈である。しかるにも拘はらず、僅かに回答總數七百五十七人に就いてのみ彼女等の聲を聞くことを得たに過ぎない。これを仕事に關するもの、周圍に關するもの、待遇に關するもの及びその他に分つて觀察すれば先づ仕事に關するもので最も多いのが「良い結果を」(百七十四人)で、之に次いで「技術の上達又は無過失」(百三十三人)、「仕事を合理的に」(四十九人)であつて、この合計は三百五十六人で、仕事、周圍、待遇、其の他に關するものゝ總件數の殆んど半數に達してゐる。

ところを見ると、仕事に關するもの、就中、仕上りの早く、出來の良い事を何よりも望んでゐる事がわかる。次に待遇では何よりも「給料の増加」(六十四人)を望むもの多く、「地位の昇進」(二十九人)、「地位の安定」(二十八人)之に次ぎ、その他では「自己將來の爲め」(二十人)が一番多い。その他の中に「家計補助」を望むものが四十五人ある。

女工の仕事に對する希望(例)

- 1 仕事を丁寧に早く仕上げたいと思ひます。(十六歳、化粧品製造)
- 2 働くことを楽しみに思つて居ります。(二十五歳、印刷所)
- 3 仕事に間違のない様に敏捷に出來ることを願ふ。(十八歳、印刷所)
- 4 成るべく分業にして頂きたい。(二十七歳、電球製作所)
- 5 むずかしい仕事でないから明らかにせしめて。(十九歳、レイト工場)
- 6 一袋でも皆さんの、愛用品となること。(二十四歳、齒磨工場)
- 7 忠實に働いて同じ工場で永く居たいです。(二十歳、製藥所)
- 8 皆さんと仲良く仕事を致したいと思ひます。(十九歳、齒磨工場)
- 9 健康に支障のない仕事を望みます。(二十一歳、自轉車製造)
- 10 お金がほしいのです。(二十六歳、運動具製造)
- 11 國家の爲め、自分の爲め、仕事をなる可く多くなし、従つて収入を多く得んが爲めなり。(二十六歳、電機製造)
- 12 只一日の仕事に満足に爲し遂げて歸ることが出來ればよいと思ふ外無し。(五十四歳、活版製造所)

(二) 仕事に對する感想

イ 一番楽しく思ふ事——女工の感想の中、一番楽しく思ふことを仕事、周圍、待遇に關するもの、その他の四つに分

けて觀察して見よう。

回答總數一千四百四十三人中、仕事に關するものが一千二十人に及び總數の七割に當つてゐるがこの中最多數を占むるものは「能率の上るとき」(二百三十四人)であり、次ぎは「豫定通り完成」(百九十人)、「難かしくは又は多量の仕事の完成」(百五十三人)、「好きな仕事」(七十六人)、「多忙のとき」(七十二人)、「暇又は休息のとき」(六十九人)であるが、この最後の二者が殆んど同數であることは偶然の一致ではあるけれど面白い現象である。

次に周圍については「同僚間仲良き事」が六十三人あつて、この氣持あつてこそ暗い工場の中も愉快に能率的になつて來るのである。

待遇に關するものでは「休日又は在宅」(百二人)を喜ぶものが最も多く、事務員、タイピストその他の職業に従事するものに比して、絶對多數であることは如何に彼女達にとつて、解放されたる喜びの大きいかを如實に示すものである。「昇給又は昇進」が十五人よりない。

その他については「楽しみ更になし」といふのが女工に限られて存在するのは暗然言葉がない所である。楽しみ更になしとは、あまりにも儚ない人生ではあるまいか。「身體の健康」と「給料日」とは誰しもの望むところであらう。

一番楽しく思ふこと (例)

- 1 やり悪い仕事も早や少しで片付く間際。(二十七歳、印刷所)
- 2 與へられたる仕事を早く完結する事。(三十八歳、印刷所)
- 3 きかいがちようしよくつく時。(十八歳、綿糸調帶製造所)
- 4 専心業務にはげむ時、働く事の楽しさを思ひます。(四十三歳、リボン製織所)
- 5 共に働く人々の間の感情の圓滿なこと。(十八歳、製版所)

- 6 仕事をしながら歌を唄ふ事。(十九歳、活版所)
 - 7 友達との談話(休暇時間中に於ける)。(十六歳、化粧品製造)
 - 8 送金をして母をよるこぼす。(二十三歳、紡織會社)
 - 9 金のたまるのが楽しい。(二十九歳、運動具製造)
 - 10 田舎(ゆく)事。(十八歳、モスリン工場)
- ロ 一番嫌に思ふ事——これも仕事、周圍、待遇及びその他に分けて述べることにするが、回答總數は一千六十四人である。先づ仕事に關しては、「豫定通り捗らぬ事」(百四十三人)が最も多く、その次が「出來上り不良」(一四〇人)であり、「能率の上らぬ事」(九十二人)及び「機械の故障」(七十六人)等である。

周圍に關するものでは「上役の無理解」(四十九人)及び「同僚間の不和」(四十九人)であつて、これは直接に能率に關係あるため一つには愉快に仕事の出來ないためである。

待遇に關するものでは「勤務時間の延長」(二十五人)が最も嫌はれてゐる。豫定の時間に歸れない事は全く嫌であり、次に「給料の低廉」が十八人ある。

その他の項目では「病氣又は身體の故障」(九十四人)が最も多いが、これは誰しも思むところである。遅刻の九人あるのはその日中愉快に働けないからであらう。

一番嫌に思ふこと (例)

- 1 只漠然としていやです。(十九歳、印刷業)
- 2 時々器械が故障するのがいやに思ふ。(十九歳、ペン先工場)
- 3 思ふように仕事のできない日。(二十二歳、紡織工場)

- 4 仕事の無い時です。(三十六歳、洋服裁縫)
- 5 分業的でなく一日の中に何度も變つた仕事を命ぜられること。(二十七歳、電球製作所)
- 6 まじめに働いてゐます時むだのはなしをしかけられるのがいやです。(十九歳、メリヤス女工)
- 7 場内で友達と争つた時。(二十五歳、活版所)
- 8 友人間の形口。(三十八歳、印刷所)
- 9 賃銀値下。(二十二歳、帽子製造所)
- 10 監督にしかられる事。(二十六歳、電機製造業)

第二節 車 掌

街頭進出——を文字通りに示すものに女車掌がある。これが初めて出現したときには人々は實際に一種云ふべからざる



好奇の眼を見張つたものである。けれども今はどうであらうか。都大路に風を孕んで馳驅するかの青、緑のバスには、今はなくてはならぬ花である。

けれども、あの狂燥と動搖を思ふとき可憐なる乙女の働きとしては、どんなにかつらいことであらうと思はない人は無いであらう。交通労働は、近代文明の寵兒であ

るがまたそれだけに幾多の困難が伏在してゐることであらう。前に述べたる女工とは、また異つた意味もあるのである。この業務が心身に及ぼす影響及び勤務時間、公休日、又は婚姻關係、子供關係など、それに給料などを時に詳しく見ようと思ふのである。

一 身 上

(一) 年齢——車掌及び車掌監督を加へたる百六人のうち、五十五人が二十歳未満、四十五人が二十歳から二十五歳未満、二十五歳から三十歳未満が五人といふ工合で、殆んど全部が青春の女性である。たゞ車掌監督として、三十八歳の人

が一人居るのが最高である。

(二) 戸主又は夫の職業——女車掌として働きに出る家庭はどうであらうか。總數九十六人中、無業が二十二人、商業が二十一人、工業が十七人、農業十六人、交通業十五人、公務自由業八人といふ順序を示し殆んど各種職業に及んでゐる。無業は必ずしも失業者といふわけではなくて、有價證券等を持つもの、不動産収入で生計を立てゝゐるもの及び學生等を

含むものである。

(三) 配偶關係と子供の有無——車掌及び車掌監督の總數百六人のうち、未婚者は九十八人、有夫者は僅かに七人、夫に死別したるものとしては、監督を除いては一人も無い。

従つて、子供關係を見ても、全體として僅かに一人に過ぎない。これは子供二人を抱えたものである。百六人のうち、百五人は子供が無いのである。

(四) 就職の目的——職業婦人の就職目的の殆んど大部分が、家計の補助に在ることは先きにも繰り返へし述べたところである。車掌の場合も勿論同様であつて、總數百二人中七十九人が家計補助で斷然群を抜き、之に次いで自活のた

めといふのが十六人、その他嫁入仕度、貯蓄、職業婦人希望、趣味のため等が各一二名づゝある。このうちで、趣味のためといふのが一寸おかしく思へる。又「自動車に乗りたいため」といふのがあつたが、職業を趣味としてやつて行けるとは何と、羨ましいことではないか。

(五) 休日利用方法——彼女らは、その休日を家庭に在つて如何に暮すか、観ておかうと思ふ。左に休日利用方法を列挙してみよう。

車掌の休日利用方法 (延数)

總數	一二五	散步	五
(在宅)		觀劇	三
家事手傳	三五	旅行、訪問	二
讀書	二九	(趣味、稽古)	
裁縫	一七	諸稽古	三
洗濯	八	音樂	三
私用	一	音樂	三
(外出)		娛樂	三
映畫見物	九	(其ノ他)	七

これによつて見ると、やはり多いのは、家庭に在ることであつて、家事の手傳をなし、讀書をし、裁縫をするといふ順序になつてゐる。けれども外出するとなると、映畫見物又は觀劇が斷然多くして、散歩などはそれに比して遙かに少い。

(六) 住居種別——監督を入れて總數百六人の内、自宅通ひが一番多くして六十六人であるのは尤もの事であるが自宅以外より通勤するものゝ數は、他の業務に比して仲々多い。即ち間借、下宿が三十三人、親戚知人寄寓が七人に達してゐる。

二 勤務

(一) 就職の方法——大部分が自動車の車掌であるが、その就職方法を見よう。車掌は他の職業と異り、最も多いのは募集廣告を見たものであつて總數九十四人中四十人に達し、親戚知人の紹介に依るもの三十八人、直接面談が十一人、職業紹介所を経由したもの四人、學校の紹介が一人といふことになつてゐる。

(二) 勤続年限——車掌の業務は、誰れが見ても激しいものだが、果していつまで續くであらうかと疑はせるわけである。けれども、案外に長いものもあつて、最も長いのは十三年近いといふものが二人からある。尤も、これはズツと車掌を續けたのかどうかはわからない。一年から二年までが一番多くて百二人中約半分以上の六十四人、三年から五年までが二十名、二年から三年迄が十三人、五年から七年迄が三人である。

(三) 就業時間——次に就業時間を見てみるに、まづ七時間以下は無いが、一番多いのは九時間から十時間までで、總數百三人のうち四十一人である。が、十二時間を超えるものも八人からあるのには、いさゝか驚くのである。もつとも、これらは出勤より退勤までの總時間を記入したものである。

就業時間記入總數百三人の中、八時間までのものが二十二二人、九時間までが八人、十時間までが四十二人、十一時間までが七人、十二時間までが十六人、十二時間を超えるものがなほ八人からある。

(四) 公休日數——次に一箇月の公休日數を見るに、五日といふのが最も多い。すなはち公休日數總數百一人のうち、三日の十五人、四日の三十三人、五日の五十二人、六日の一人といふことになつてゐる。

(五) 健康状態——業務が心身に及ぼす影響を見よう。これは、かなり問題とされてゐるところであるが、果して彼

女らはどうであらうか。

健康状態	
總數	九一
影響なし	五五
身體の疲勞	一三
内臓障害	五
健康を害す	四
脚氣	三
頭痛	一
精神疲勞	一
其の他	九

これによると、大した影響は無い、といふのが大部分である。更にその詳細については、後に述べるところの仕事に関する希望や感想の項をも参照されたい。

三生計

(一) 給料——車掌の給料といふものは比較的少い様である。初任給を見るに、最も多いものは二十一圓以上二十五圓以下で、總數百四人のうち八十四人である。初任給の最高では四十六圓以上五十圓以下が二人ある。更に現在給料を見ると、同じく二十圓から二十五圓までが一番多くして、總數九十九名のうち、五十二人を占める。左に現在給料を調べて見ると、

車掌の現在給料

總數	九九
一五 — 二〇 圓	五
二二 — 二五	五二
二六 — 三〇	一一
三一 — 三五	五
三六 — 四〇 圓	五
四一 — 四五	九
四六 — 五〇	一〇
五一 — 五五	一

車掌の一人當り平均は二十八圓六十九錢となるが、これは他の業務に比較して決して多い方ではない。事務員の三十四圓餘、店員の二十八圓九十一錢に比しても少い。製圖手の三十四圓餘、タイピストの四十圓餘、交換手の三十五圓餘よりも少い。

然れども、給料以外になほ手當や賞與もあるからして以下、給料以外の収入をも調べてみよう。

(二) 給料以外の収入——給料以外の収入としてまづ手當を見よう。手當の無いもの六人を除いたる七十六人中、最も多いのは十五圓未滿と二十圓未滿である。この點から見ると、他の業務に比較して非常に多い。全體を通じて多いのは三圓以下である。タイピストと雖も五圓以下であり、手當額十圓を越すものは僅かにこの車掌とダンサーである。

左に車掌の手當額を見てみよう。

總數	七六
一圓以下	二
三圓以下	六
五〃	八
二四五	

七圓以下	一	二〇圓以下	一七
一〇 "	七	二五 "	一三
一五 "	一八	三〇 "	四

次に賞與を見よう。

車掌の賞與について記入したる者の總數七十九人の中、一圓以下が五人、三圓以下が二十三人、五圓以下が四十五人、七圓以下が四人、十圓以下が二人となつてゐる。

これら以外になほ家庭又は其の他から扶助を受けてゐるものがある。その數は五人に過ぎないが、その額も不定で二十圓に達するものもあるが、多くは有つても五圓以下である。

(三) 收入總額——給料以外に、手當、賞與及び其の他の收入を合計したる車掌の收入總額を見よう。其の最も多いのは四十圓以上四十五圓未滿であつて。次が五圓増しの五十圓未滿である。

車掌の收入總額

總數	七六	五〇圓以下	一八
二五圓以下	一	五五 "	一〇
三〇 "	四	六〇 "	五
三五 "	五	六五 "	一
四〇 "	八		

これを他の業務に比較してみると、比較的高額のものが多いといふ結果を示してゐる。事務員では四十圓以下、店員では三十五圓以下、交換手も三十五圓以下、炊事婦は四十圓以下、女工では二十五圓以下といふ處が、その數に於いて多いのであるのに比較してもよくわかるどころである。

(四) 支出關係——次に支出關係について、各項目別に述べてみよう。

イ 被服費、一箇月五圓以下といふのが一番多い。その次が三圓以下である。特別に多額のものとして、一箇月三十圓近いものがあるが、これは例外である。

ロ 食費及び住居費——次に食費及び住居費をみるに、十圓以下といふのが全體の三分の一位を占めてゐる。けれども之等は主として自宅より通勤するものである。

ハ 家計補助——家計へ補助をなすものは、勿論的確には不明であるが、一番多いのは十圓以下になつてゐる。最高に五十圓といふものがある。

車掌の家計補助

總數	七四	一五圓以下	一一
五圓以下	八	二〇 "	一三
一〇 "	二〇		二四七

二五圓以下 八
 三〇 " 五
 三五 " 三

四〇圓以下 一
 四五 " 二
 五〇 " 二

ニ 修養費——修養費の内容は漠然としてゐて不明であるが、大體に精神修養のために使用消費する金額を見積つたものである。圖書雜誌などをもこの中に含んだものも多い。兎に角にかゝる意味の修養費は他の業務と殆んど同様に三圓以下が一番多い。車掌の一人平均修養費は二圓五十六錢に當り、監督は五圓となつてゐる。

ホ 娯樂費——娯樂費も一番多いのはやはり三圓以下であり、一人平均は、二圓四十七錢に當る。

ヘ 貯蓄——次に貯蓄額は如何といふに、やはり一番多いのは三圓である。その外に貯蓄額三十圓を超過するものがある。

次に貯蓄額を一覧してみよう。

車掌の貯蓄額	
總 數	七〇
一〇圓以下	一一
一五 "	二二
二〇 "	一
二五 "	一
三〇 〃 超過	二
總 數	一一
一圓以下	八
三 "	二九
五 "	一二
七 "	四

四 仕事に對する希望及び感想

(一) 仕事に對する希望——車掌及車掌監督の仕事に對する希望を見るに、大體に於いて左の如くなる。

總 數	四七	勤務時間の嚴守	五
世人又は御客の理解	一七	忠實にしたし	三
成績を擧げること	八	合理的に	一
給料の増加	六	勤務先の發展	一
愉快にしたし	五	自己將來のため	一

これによつて見ると、世人又は御客の理解を求めるものが一番多いのである。左に調査票から抜いた、かの女等の直接の聲を聞こう。

- 1 お客様に親切、丁寧に御満足になる様研究すること。(十九歳、高小卒)
- 2 お客様に良い感じをあたへるよう。(二〇歳、高小、産婆學校卒)
- 3 乗客を早く安全に目的地にはこぶこと。(二〇歳、實科女卒)
- 4 何時もほがらかな氣持で乗客に接し、また接しられること。(十八歳、女學校中途退)
- 5 出来るだけ、ほがらかに、老人と子供を愛し、親切に。(二十四歳、工學校卒)
- 6 終日何等間違なく職務を全ふせんことを希望す。(三十八歳、女學校中途退)
- 7 八時間勤務制。(二十二歳、高小卒)
- 8 同一仕事に同一賃金を望む。(二十三歳、高女中途退)

- 9 會社の利益になるとともに給料を多くいただきたい。(十八歳、高女中途退)
- 10 資本家をたす。(二十歳、高小卒)
- 11 金を得る爲め。(十九歳、尋小卒)

(二) 仕事に對する感想

イ 一番楽しく思ふこと——仕事に對する感想では、楽しく思ふこと、嫌に思ふこととの二つがあるが、何れも世人や御客の理解を求めることが大である。

一番楽しく思ふことを大體に分けてみると、

總 數	六六	好きな仕事	三
世人又は客の理解あること	二八	歸宅のとき	三
無事に完了	一五	多忙のとき	二
休日又は公休日	九	家に心配なきとき	一
同僚間仲良きこと	五		

- 1 思ふ儘に仕事が進ぶ時、そして乗客を澤山收容して多く働けた時。(二十二歳、高女中途退)
- 2 お客様に真からほめていただいた時、又はお店のためになつた時。(十七歳、高小卒)
- 3 よい客に乗つていたと事又すきな運轉手に出ること。(二十四歳、尋小卒)
- 4 満員の時一人も切り洩れしなかつた時。(二十歳、實科女卒)

- 5 客に勵まされる時。(二十歳、高女卒)
- 6 従業中、客の満員が最も楽しみとす。(二十歳、尋小卒)
- 7 氣持良く仕事が出来るとき、又回数券がたくさん賣れる時。(十九歳、高小中途退)
- 8 乗務は一日のホームの様なもの、好きな車、好きな運轉手さん。(二十三歳、高女中途退)
- 9 あかるい氣分の乗客、満員、天氣好き日。(二十四歳、工學校卒)
- 10 理解あるお客様が乗車して呉れる事。(二十歳、高女卒)
- 11 乗務を終つて歸途につく時。(二十五歳、尋小卒)
- 12 兄弟全部揃ふ時。(二十歳、高小卒)

次に、一番嫌に思ふことを探つて見よう。

總 數	七〇	過勞	二
世人又は御客の無理解	四七	豫定通りはかどらぬこと	一
病氣又は身體故障	八	仕事がないこと	一
能率の上らぬこと	六	上役の無理解	一
同僚間の不和	三	勤務時間の長いこと	一

これによつても解るところであるが、御客の理解の無いことを一番に苦痛に感じてゐるようである。殊に亂暴な客や、泥酔者を嫌つてゐる。また、激動のために、病氣や身體の故障の場合をも苦痛だといつてゐる。或ひは嫌な運轉手との組合せなどである。

左にその例を掲げて見よう。

- 1 いやな客やいやな運転手と出る事。(二十四歳、尋小卒)
- 2 客が下りる停留場をはつきりいけぬ時。(二〇歳、尋小卒)
- 3 お客様に無理な小言を言はれる時。(十九歳、高小中途退)
- 4 非常識の客に逢ひし時。(二十三歳、實科女卒)
- 5 お酒のんで、わからない事言ふお客様。(二〇歳、産婆學校卒)
- 6 お客様の不慮な行動の時。(二十三歳、高小卒)
- 7 非常識なブチ、ブル的な人達。(十九歳、尋小卒)
- 8 客と口論するとき。(二十一歳、高小卒)
- 9 車内で客にタンツバをされた時。(二十二歳、高女中途退)
- 10 氣分の悪い時。(十七歳、高小卒)
- 11 官憲の壓迫、ブルヂョア階級の横暴な態度、特に貴婦人の。(二十五歳、尋小卒)
- 12 暴風雨、雪の日に働く時。(二〇歳、高小卒)

第三節 劇場案内人

好きな歌舞伎やシネマを観ながら働くとは、何と羨しいことだらう。ところが、世の中は皮肉なもので、案内人を採用するときには、芝居やシネマの嫌ひなものを、といふことである。もつとも、餘り好きであつたなら仕事はそつち除けにしてしまふ恐れがあるからであらう。

けれども、華やかな裏には、なかく困難が隠されてゐるものである。まづ、その勤務時間が非常に長い、ところがそれに反して給料は少い様である。その外に手當もあることだらうが、まづ大體に於いて収入は少い方である。芝居や映畫館の様な人ごみの中、殊に映畫館のやうに暗い中で仕事をするのであるから、身體の方はどうであらうか、等々に特に興味を抱いて眺めて見よう。

一 年齢——案内係總數二百八人のうち大半は十五歳以上二十歳以下である。百二十六人を占める。

案内人の年齢	總數	二〇八
一五歳以下	四	
二〇	一二六	
二五	六七	
三〇	九	
四〇	一	
四五	一	



二 戸主又は夫の職業——家庭の職業について回答したる總數百八十七人中で一番多いのはやはり普通の商業たる日用品販賣店の四十二人、次が大工請負を含むところの土木建築業の二十二人を次が會社の勤人などの十八人といつた工合である。大體に於いて餘り高級の職業についてゐるものは少いやうである。

三 教育程度——次に教育程度について見るに、總數二百六人の中、尋常小學校程度が百二人、高等小學校が七十四人、實科女學校が六人、高等女學校が十人、特殊技藝學校が五人となつてゐる。

すなはち尋常小學校程度が一番多いのであるが、しかも高等女學校程度が十九人もあるといふことが示されてゐる。

四 勤務時間——案内人について特に顯著なる事實は、勤務時間の比較的長いことである。すなはち他の職業では大體に於いて八時間から十時間までのものが一番多いのであるが、案内人だけは十時間から十二時間までが一番多い。勤務時間についての回答を得たる總數百六十四人中、八時間までのものが八人、十時間までが四十九人、十二時間までが七十二人、十二時間を超過するものが三十五人となつてゐる。

映畫館では、大體午前十一時から午後十一時頃までである。いま一寸、手元の調査票をめぐつて見るに、

勤務時間	年齢	勤務先	地域
十時間	(十九歳).....	映畫館	(深川區)
十一時間	(十七歳).....	映畫館	(深川區)
十一時間半	(十九歳).....	映畫館	(牛込區)
十二時間	(二十二歳).....	劇場	(京橋區)
十二時間半	(十八歳).....	映畫館	(市外大井町)
十三時間	(十七歳).....	映畫館	(淺草區)
十四時間半	(二十歳).....	映畫館	(淺草區)

といふ場合である。

他の業務の就業時間と比較してみると、八時間以下が一番多いのは電話交換手と事務員、十時間以下では女工、店員、タイピスト、給仕、掃除婦などであつて、十二時間までのものはこの案内人だけである。且また十二時間を超過するものに於いて斷然多いのである。百六十四人中、三十五人を占め、五分の一に當る。

五 休日數——次に休日數を見るに、一箇月に一日といふのが大部分(百三十六人)であり、二日が二十九人あるのを別として三日以上といふのは一人もない。これも亦、他の業務に比して目立つて少いところである。休日の最も多いものについて、他の業務と比較して見るに、休日一日といふのは案内人を除いては見當らない。二日が最も多く女工、店員、食堂給仕、雑役婦などであり、四日は掃除婦、五日は事務員、タイピスト、交換手、給仕などである。

六 給料——劇場の案内人を志したのは、何も芝居や映畫が好きだからではない。暗い家計を背負つてゐるのである。幾分でも稼いで、家計を助けようといふのが大部分である。さて、彼女らの給料はどれ位であらうか。

案内人の給料	總數
三五圓以下	一九五
四〇	七
四五	七
五〇	七
五五	七
六〇	七
六五	七
七〇	七
七五	七
八〇	七
八五	七
九〇	七
九五	七
一〇〇	七
一〇五	七
一〇〇以下	七

これによると、やはり二十五圓以下の處が一番に多い。一人當り平均は二十五圓七十九錢である。これは事務員、店員、交換手、雑役婦、掃除婦、エレベーターガール、車掌、女工等よりも少く、圖案手、炊事婦、給仕、ステイヂダンサーよ

りも多い。以て、案内人の給料の位置がほど推察出来ようと思ふ。

七 その他の収入——まづ、手當である。手當の無いものが五十七人、有るものが五十二人であるが、有るものゝ内譯を見るに、最も多いのは三圓以下の二十三人である。手當三圓以下といふのは、他の業務の場合でも大體同じである。必ずしも手當に於いては、案内人は多いといふ譯ではない。

次に賞與について見るに、賞與の有るもの四十八人のうち三十五人迄が一圓以下である。他の業務に比しては寧ろ少いやうである。

八 収入總額——給料以外にも手當や賞與を加へ、尙それ以外にも家庭からの扶助額等をも入れたる収入總額を調べて見よう。

案内人の収入總額	
總 數	一五〇
二〇圓以下	二四
二五 "	四六
三〇 "	三九
三五 "	二四
四〇圓以下	九
四五 "	五
五〇 "	一
六〇 "	一
六五 "	一

九 支出關係——支出の方面を見渡すに、まづ被服費は三圓以上五圓までといふのが一番多い。これはどの業務に於いても大體に似てゐるところである。

食費及び住居費としては十圓以下が一番多い。これも亦他の業務に於いてと大體同じである。

その他、家計補助では五圓から十圓まで、交通費では三圓から五圓まで、修養費を出すものは一圓以下、娯樂費では三圓以下のもの、更に貯蓄額では三圓以下が多い。

尤も、右に述べたる各項目は必ずしも全部が有るのではない。たゞその有るといふものゝ中で比較的が多いものを探つたのである。

第四節 掃除婦



華やかなデパートやビルディングの蔭に働いてゐる掃除婦は、それが決して人の目には立たないまでも、正にその「衛生掛」を承つてゐるといふべきである。

概して年齢の高いものであるが、それでも四十歳未満の働き盛りの人が多い。けれども亦五十路を越しての「老いたる戦士」がなほ幾多あるといふのも顯著なる事實である。

尤も最近婦人の職業意識が向上した結果、従來の如くひたぶる華やかな生活を憧れることはなくなつて、齡若く而も教養ある人々が進んで雑役、炊事等の地味な仕事に就かうとしてゐるのは注目し得る傾向である。

一 年齢——掃除婦については、流石に二十歳以下には無い。總數二百三十一名の中、最も多いのは三十六歳か